

東武鉄道株式会社 第132回無担保社債（グリーンボンド） レポート（2023年5月末時点）



■ 本社債の資金充当状況および環境改善効果は以下のとおりです。

資金使途		調達資金の充当状況		インパクト・レポート（環境改善効果）
		充当済額	未充当額	
新型車両の導入 （クリーン輸送） 	新型車両 N100系 SPACIA Xの導入 	(新規) 49億円	(新規) 44億円 (※1)	■ 2023年5月末時点で2編成12両が竣工済みであり、2023年7月15日運行開始予定 ■ 2023年度中に残り2編成12両が竣工予定であり、2024年度中に運行開始予定 ■ 2023年7月15日運行開始予定のため、2023年5月末時点で測定可能なデータはないものの、現100系スーパーシアと比べCO ₂ 排出量を最大40%削減できる見込み
	新型車両500系 リバティの導入 	(リファイナンス) 6億円	—	■ 車両導入数 : 3両(1編成) ⇒2021年度に増備した18両のうちの3両分 ■ CO ₂ 排出削減量 : 218 t-CO ₂ /年/1編成 (※2)
太陽光発電システムの設置 （再生可能エネルギー） 	東武動物公園駅西口商業施設 	(リファイナンス) 1億円	—	■ 年間発電量 : 558,781 kwh (※3) ■ CO ₂ 排出削減量 : 252 t-CO ₂ /年 (※4)
計		56億円	44億円	

(※1)内部で別途区分管理するとともに、現金または現金同等物にて管理している。

(※2)100系スーパーシアとの比較。消費電力や特急車両の年間走行キロ等を基にした推計値。

(※3)2022年度実績。

(※4)2022年度実績の年間発電量に、CO₂排出係数0.000451t-CO₂/kwh(2022年度電気事業者別排出係数)を乗じた推計値。